

## 平成28年度発がん性試験候補物質

候補物質	管理濃度	許容濃度	ACGIH TLV basis	GHS発がん性分類	発がん性分類	FS試験実施年度	遺伝毒性試験実施結果	類縁物質のがん原性試験の状況等	その詳細	用途	製造・輸入数量(t) (CHRIPデータ)	備考
酢酸エチル (CAS 141-78-6) 第2種有機溶剤等 SDS対象、表示対象	400 ppm	ACGIH TWA 400 ppm  産衛学会 200 ppm	URT and eye irri 上部気道及 び眼刺激	分類できない(マウス腹腔内8週間投与試験が実施されている(IUCLID(2000))が、データ不足のため分類できない)	IARC - 産衛学会 -	H19	エームス陰性	毒性が比較的低いため高濃度での試験となる。  類縁化学物質である酢酸イソプロピルのがん原性試験を日本バイオアッセイ研究センターで実施済(平成21年12月15日の有害性評価小検討会で評価 →雄ラットに対して閾値のあるがん原性)。	○酢酸イソプロピルの2年間(104週,1000, 2000, 4000 ppm)吸入 ばく露試験により、ラット雄に腹膜の中皮腫の発生増加が認められた。(高濃度ばく露群(4000 ppm)で実施施設の背景データを超える発生となり、傾向性検定で有意) 非腫瘍性病変としては鼻腔の呼吸上皮等に変化があった。	塗料及び印刷インキ、レザー、接着剤、真珠、医薬品原料などの溶剤または原料	2013年度 200,000-  <300,000	
エチレングリコールモノエチルエーテル (別名 セロソルブ、2-エトキシエタノール) (CAS 110-80-5) 第2種有機溶剤等 SDS対象、表示対象	5 ppm	ACGIH TWA 5 ppm  産衛学会 5 ppm	Male repro & embryo/fetal dam 雄性生殖機能損傷、胚/胎児損傷	分類できない(データ不足のため分類できない)	IARC - 産衛学会 -	H19	(エームス陽性、染色体異常試験陽性・陰性(NTP))	類縁化学物質である、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテートのがん原性試験を日本バイオアッセイ研究センターで実施済(平成26年7月15日リスク評価検討会で評価→がん原性なし)		各種樹脂用溶剤、 医薬用抽出剤	2013年度 1,000- <2,000	H23.12 ばく露作業報告告示(生殖毒性、神経毒性GHS区分1でリスク評価対象に選定)H25.3報告提出
酢酸ノルマルブチル (CAS 123-86-4)  第2種有機溶剤等 SDS対象、表示対象	150 ppm	ACGIH TWA 150 ppm STEL 200 ppm  産衛学会 100 ppm	Eye and URT irri 眼及び上部 気道刺激	分類できない(データなし)	IARC - 産衛学会 -	H21	エームス陰性	類縁化学物質である酢酸イソプロピルのがん原性試験を日本バイオアッセイ研究センターで実施済(平成21年12月15日の有害性評価小検討会で評価 →雄ラットに対して閾値のあるがん原性)。	○酢酸イソプロピルのがん原性試験に先だて行われた細菌(ネズミチフス菌及び大腸菌)を用いた変異原性試験はいずれも陰性となった→発がん性は遺伝毒性に基づくものではない ○上記のがん原性試験結果と合わせて閾値のある発がん性を有すると判断	溶剤(航空機塗料、各種樹脂、綿火薬、エナメル、ラッカー、樟脳、ゴム)、人造真珠塗料、天然ゴム、ペニシリン、セルロイド、人造皮革等の溶剤、果実エッセンス、医薬品、抽出剤	2013年度 40,000-  <50,000	
アリルアルコール (別名 2-プロペン-1-オール) (CAS 107-18-6) SDS対象 強い変異原性(H18指針指導)	-	ACGIH 0.5 ppm  産衛学会 1 ppm	Eye and URT irri 眼及び上部 気道刺激	区分外: ACGIHの発がん性評価でA4に分類されている(ACGIH(2001)ことから、区分外とした。なお、ラットに106週間飲水投与後、生涯観察した試験において、発がん性の明瞭な証拠は見出されなかったが、雌の肝臓でのみ腫瘍の発生がやや増加し曖昧な結果(SIDS(2005))となっている。	IARC - ACGIH A4 (ヒト発がん性因子として分類できない) 産衛学会 -	H22	染色体異常試験陽性	代謝産物であるアクリル酸およびアクロレインのがん原性試験を日本バイオアッセイ研究センターで実施している。  ○アクリル酸:平成23年10月18日の有害性評価小検討会で評価→ラット、マウスともがん原性なし  ○アクロレイン:バイオで長期発がん性試験実施中(平成27年度終了予定)	○アクリル酸の2年間(104週)の吸入 ばく露試験で、ラット、マウスの雌雄ともに腫瘍の発生増加は認められなかった。 非腫瘍性病変としては鼻腔又は鼻咽喉頭への影響が確認された。	ジアリルフタレート樹脂・医薬・香料・難燃化剤などの原料	H25年度 (2013) PRTR排出量 5 t 同移動量 153 t	H22.1の企画検討会でフィージビリティテスト対象物質に選定(ACGIH A4等を考慮)
1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピル)ヘキサヒドロ-1,3,5-トリアジン-2,4,6-トリオン (別名 1,3,5-トリスグリシジル-イソシアヌル酸) (CAS 2451-62-9) SDS対象 強い変異原性(H12指針指導)	-	ACGIH TWA 0.05 mg/m <sup>3</sup>  産衛学会 -	Male repro dam 雄性生殖機能損傷	分類できない(データなし)	IARC - 産衛学会 -	H23	○エームス陽性最大比活性2640 ○染色体異常試験陽性D <sub>20</sub> : 0.00013 mg/ml	(実施する場合、固体であり、粉じんばく露の設備を要するが、試験実施が可能な場所における設備の使用状況についても考慮が必要)		粉体塗料(ポリエステル系の硬化剤)、はんだレジストインク、光半導体封止樹脂・電気部品成形材料・強化プラスチック・接着用・耐熱レジストインキ・エポキシ樹脂改質材・難燃性プラスチックの安定剤	2013年度 4,000- <5,000	H23.1の企画検討会でフィージビリティテスト対象物質に選定(遺伝毒性の強さ、生産量等を考慮)